

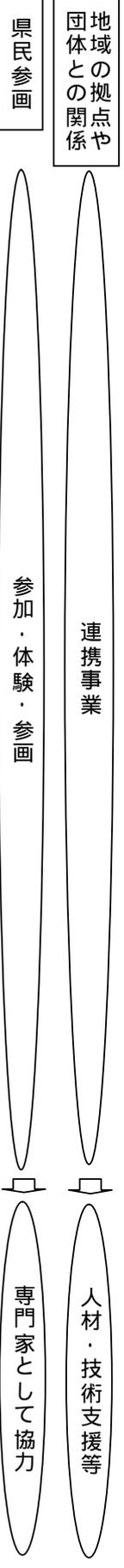
参 考 資 料

資料 1	博物館機能（タテ系の機能とヨコ系の機能）と具体的な 活動内容想定例 ……………	1
資料 2	三重県文化審議会 経過 ……………	2
資料 2 別紙	諮問文（写） ……………	4
資料 3	「三重の文化振興方針(仮称)」(中間案)および「新博物 館のあり方について」(素案)に対する県民等からの意見 ……	5
資料 4	三重県における博物館整備にかかる経緯 ……………	6
資料 4 別紙	県立博物館整備に関するこれまでの検討内容の概要 ………	7

(資料1)

博物館機能(タテ系の機能とヨコ系の機能)と具体的な活動内容想定例

	収集・収蔵機能	調査・研究機能	展示・情報発信機能	閲覧・レファレンス機能
県民参画機能	<ul style="list-style-type: none"> 博物館資料の整理作業への参画(昆虫・植物標本の作成・整理、古文書等の歴史資料の整理業務への参画) 資料の寄贈・寄託 <p>実物のモノ資料に触れながら、その保存活動に参画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県民参画型の調査活動(自然愛好会・郷土研究会など地域の研究団体と連携した調査研究活動) <p>博物館の調査研究活動に対して広く県民の参画を得て、三重の自然と歴史・文化への関心を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県民参画型展覧会(みんなでつくる展覧会など) 解説ボランティア(展示解説や学校見学対応などの活動への参画) <p>博物館の展示や情報発信、来館者サービス活動に参画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアアドバイザー(閲覧・レファレンスエリアや「子ども研究室」でのアドバイザー活動) <p>さまざまな得意分野をもった県民の参画を得て、閲覧・レファレンス活動の幅を広げる。</p>
学習支援機能	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵展示(見て・触れて・体験できる自然資料や民俗資料の収蔵庫など) 収蔵庫見学(バックヤードツアーの実施など) <p>資料保存の大切さを実感的に学ぶ機会とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参加型博物館行事(フィールドワークや歴史探訪等の行事など) <p>教育普及行事としてだけでなく、県内の自然と歴史・文化に関するデータ収集的な性格も兼ね合わせた活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 展示、講演会等(常設展、特別展・企画展の見学、講演会等の受講) 情報発信(インターネットやミュージアムシアター等を活用した情報発信) <p>展示見学や博物館の行事、情報をとおして学び、博物館への親しみを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> モノ資料の閲覧(実物のモノ資料の閲覧およびそのアドバイスなど) レファレンス(三重の自然と歴史・文化に関する学習や研究への相談対応) 「子ども研究室」(子ども学芸員の活動の場。自然と歴史・文化の楽しみ方・調べ方のアドバイス) <p>博物館のモノ資料の魅力を知り、活用のきっかけを得る。</p>
地域活動機能	<ul style="list-style-type: none"> 資料収集・保全活動(県内の博物館等と役割分担・協力して行う地域の自然と歴史・文化の資産の保全と収集・収蔵活動) <p>県内全域をフィールドとする収集・収蔵活動を活性化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域共同研究(県内各地域の博物館や県民・諸団体と連携して行う三重の自然と歴史・文化の調査・研究活動) <p>総合的な見地から、地域の県民・諸施設・団体と共同で「三重」の研究を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 移動展示および教育普及活動(県内各地で実施する移動展示や教育普及事業) <p>博物館から離れた県内各地域に博物館が打って出る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 広域レファレンス活動(県内の図書館や博物館等と連携したレファレンス活動) <p>館内だけにとどまらず、レファレンス活動を他機関と連携して行うことにより、内容の向上をめざす。</p>
人材育成機能	<ul style="list-style-type: none"> 資料および収蔵庫管理技術の研修・支援(県内博物館や文化財等資料の所有者や資料の保全・保存・修復に取り組む県民・団体に対する技術支援・研修活動・人材交流など) <p>三重の資料保全の担い手を育成し、全県的な資料保全の機運を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「県民学芸員」(参画ボランティア段階から専門家へとステップアップした県民との共同研究の推進) 共同研究を通じた人材育成(共同研究を通じた県内研究者相互の能力向上) <p>三重を対象とする研究の活性化をはかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 共同企画展(県内の博物館や博物館協会と連携した共同企画展示の実施) 県内博物館データベース(県内の博物館等と協力した博物館資料のデータベース構築) <p>展示やデータベースを共同で作成することにより、技術と情報の共有化をはかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス情報の共有システム(レファレンス活動で得られた情報や経験を県内の博物館や図書館およびその職員等と共有できるしくみづくり) <p>レファレンス情報のデータベース化により、三重の自然と歴史・文化への知識を蓄積・共有して相互に活用する。</p>



この表は、タテ系とヨコ系の機能連動による具体的な活動イメージを想定例としてまとめたものであり、新博物館において、これらの活動すべてを実施することを意味するものではありません。

三重県文化審議会 経過

1 委員名簿

< 審議委員 >

	名 前	役 職	備 考
1	今井 正次	三重短期大学生生活科学科教授	新博物館のあり方部会 (部会長)
2	大矢 陽子	鈴鹿市立長太小学校校長	文化振興拠点部会
3	川口 節子	元三重県教育委員長	新博物館のあり方部会
4	河俣 規世佳	児童文学作家	文化振興拠点部会
5	櫻井 治男	皇學館大学社会福祉学部長	新博物館のあり方部会
6	下登 彩	三重テレビ放送アナウンサー	文化振興拠点部会
7	武村 泰男	鈴鹿国際大学長 (財)三重県文化振興事業団理事長	【会長】 文化振興拠点部会
8	田部 眞樹子	NPO 法人三重県子ども NPO 拠点センター理事長	文化振興拠点部会 (部会長)
9	中川 幾郎	帝塚山大学大学院教授	新博物館のあり方部会
10	中林 博	NPO 法人三重県文化協会理事長	【副会長】 新博物館のあり方部会
11	中村 忠明	(財)岡田文化財団(パラムミュージアム)	新博物館のあり方部会
12	浜辺 佳子	(農)伊賀の里のちの手づくりファーム	新博物館のあり方部会
13	速水 亨	速水林業代表	文化振興拠点部会
14	三浦 信一	(社)東員町文化協会会長	文化振興拠点部会
15	山田 康彦	三重大学教育学部長	新博物館のあり方部会

< 専門委員 >

	名 前	役 職	備 考
1	大塚 由良美	桑名市教育委員会生涯学習課長	文化振興拠点部会
2	小山 憲司	三重大学人文学部准教授	文化振興拠点部会
3	宇野 文男	福井大学教育地域科学部教授	新博物館のあり方部会
4	竹林 武一	(財)三重県こどもわかもの育成財団理事長	新博物館のあり方部会
5	藤原 寛	三重県立博物館館長	新博物館のあり方部会
6	松生 安彦	前百五経済研究所代表取締役	新博物館のあり方部会
7	松月 清郎	ミヅト真珠島 真珠博物館館長	新博物館のあり方部会

2 会議の経過

(1) 委員会

- 第1回 平成19年 7月23日(月)
<内容> ・会長・副会長の選任
・諮問
・新しい文化振興策の考え方について
・部会の設置について
・検討の進め方について
- 第2回 平成19年 8月 8日(水)
<内容> ・検討内容について
・骨子案(案)について
- 第3回 平成19年 9月18日(火)
<内容> ・「文化振興拠点部会」「新博物館のあり方部会」の中間報告
・県議会政策討論会議の検討概要報告
・「三重の文化振興方針(仮称)」「(骨子案)について」
・「博物館に関する基本的な考え方」(案)について
・県民意見交換会の開催概要等について
- 第4回 平成19年11月20日(火)
<内容> ・県民意見交換会における意見への対応
・「三重の文化振興方針(仮称)」「(中間案)について」
・「新博物館のあり方について」(素案)について
- 第5回 平成20年 1月29日(火)
<内容> ・「三重の文化振興方針(仮称)」「(答申案)について」
・「新博物館のあり方について」(答申案)について

(2) 部会

文化振興拠点部会

- 第1回 平成19年 8月23日(木)
第2回 平成19年 9月 3日(月)
第3回 平成19年10月17日(水)
第4回 平成19年10月29日(月)

新博物館のあり方部会

- 第1回 平成19年 9月 4日(火)
第2回 平成19年 9月11日(火)
第3回 平成19年10月23日(火)
第4回 平成19年11月 6日(火)
第5回 平成20年 1月18日(金)

(3) 県民意見交換会

- 第1回 平成19年10月20日(土) (鈴鹿市)
第2回 平成19年10月21日(日) (松阪市)

諮問文(写)



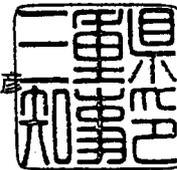
生活第12-83号

三重県文化審議会

「三重の文化振興方針(仮称)」及び新博物館のあり方について、三重県文化審議会設置条例(昭和46年7月27日 三重県条例第33号)第2条の規定により、貴審議会の意見を求めます。

平成19年7月23日

三重県知事 野呂昭彦



(諮問理由)

三重県では、「みえけん愛を育む“しあわせ創造県”」の実現に向けて、文化の持つ力に着目し、その力を高め、生かす取組を進めてきました。

平成18年度には、その考え方にそって、文化芸術分野を対象とした施策を推進していくため、「三重の文化芸術振興方策」を策定したところです。

今後、三重の文化を継承し、より発展させていくためには、文化芸術分野にとどまらない生涯学習分野などの近接領域まで幅広く対象とした文化振興のための基本的な考え方を明らかにして、県民の皆さんと行政が共に推進していく必要があります。

とりわけ、三重の豊かな文化的資源を生かし、県民の皆さん一人ひとりの感性や創造力を育み、「知の拠点」となるような文化振興拠点の機能やあり方について検討することが重要です。

あわせて、長年政策課題となってきました新しい博物館や公文書館のあり方についても、文化振興の基本的な考え方にに基づき検討していくことが必要であると判断しています。

以上のような考え方のもと、平成19年度内に新博物館のあり方を含めた「三重の文化振興方針(仮称)」を策定するため、貴審議会の意見を求めるものです。

「三重の文化振興方針(仮称)」(中間案) および「新博物館のあり方について」(素案) に対する県民等からの意見

1 県民懇談会

平成19年12月15日(土) 四日市市
 平成19年12月15日(土) 津市
 平成19年12月16日(日) 伊勢市
 平成19年12月22日(土) 伊賀市
 平成20年 1月11日(金) 熊野市

2 パブリックコメント

期間

平成19年12月14日(金) ～ 平成20年1月15日(火)

3 市町への照会

期間

平成19年12月18日(火) ～ 平成20年1月10日(木)

4 「三重の文化振興方針(仮称)」(中間案) および「新博物館のあり方について」(素案) に対する県民等からの意見の提出状況

※1	県民懇談会の意見件数		パブリックコメント						市町等からの意見件数	
	当日	書面	延べ人数 ※2					意見の件数	市町	文化施設等
			メール	FAX	郵送	持参	計			
「三重の文化振興方針(仮称)」(中間案)	1	2	6	0	5	1	12	42	16	2
「新博物館のあり方について」(素案)	165	102	16	2	12	1	31	134	1	4
合計	166	104	22	2	17	2	43	176	17	6

※ 1 いただいた意見については、整理の都合上、適宜集約しています。

※ 2 パブリックコメントの人数については、中間案と素案の両方を提出された方は両方の項目で計上しています。

三重県における博物館整備にかかる経緯

生活部作成

	整備にかかる経緯	その他の動き
S 2 8 年 6 月	三重県立博物館 開館	
S 5 7 年 9 月		三重県立美術館 開館
S 6 1 年 2 月	三重県文化審議会「三重県における博物館構想」答申	
H 1 年 1 0 月		齋宮歴史博物館 開館
H 3 年 3 月	県議会「県立中央博物館の早期建設について」 請願採択	
H 5 年 7 月	「三重県センター博物館(仮称)基本構想」公表	
H 6 年 3 月	「三重県センター博物館(仮称)基本計画」策定	
H 6 年 1 0 月		県総合文化センター開館(県立図書館開館)
H 7 年 3 月	「三重県センター博物館(仮称)展示基本設計」策定	
H 7 年 4 月	「三重県公文書館(仮称)基本計画」策定	
H 8 年 2 月	「三重県公文書館基本設計」策定	
H 8 年 3 月	「三重県センター博物館(仮称)建築基本設計」策定 センター博と公文書館、同一敷地内に別棟として設計 その後、経費圧縮のため合築計画に変更	
H 1 0 年 3 月	センター博・公文書館計画白紙に(「ハコ物」建設抑制方針)	
H 1 0 年 8 月	「新しい博物館を考える懇話会」設置	
H 1 1 年 3 月	「新しい博物館についての提言」(懇話会中間報告)	
H 1 2 年 3 月	「私たちがもつめる博物館についての報告」(懇話会最終報告)	
H 1 4 年 3 月	県議会「三重県における自然系博物館整備を 求める請願書」採択	
	懇話会の最終報告以後、実現に向けた検討が重ねられたが 結論得られず	
H 1 4 年 1 1 月	博物館整備検討プロジェクト会議を設置し、再度、当 初の基本構想をふまえ、新たな検討をすることに	
H 1 5 年 3 月	自民党県議団・無所属M I E「ミュージアム構 想に関する提言(第1次)」提出	
H 1 6 年 1 月	「三重県の新しい博物館のあり方について 提言」 (博物館整備検討プロジェクト会議)	
H 1 6 年 5 月	プロジェクト会議の提言をうけて、自然資産・文化資 産調査および新博物館整備検討業務実施 12月完成 一方、公文書館計画は、その一環として「歴史資料の 保存活用環境づくり事業」を実施(H16~18年度)	
H 1 7 年 3 月	「三重県立博物館整備にかかる当面の方針」公表 財政事情から博物館の建設は当面見送り、現博物館の 改修(暫定整備)と移動展示を先行実施することに	
H 1 8 年 1 0 月	「暫定整備基本設計・耐震補強計画」策定 精査の結果、改修に多額の費用がかかることが判明	
H 1 9 年 2 月	知事選挙公約に新博物館構想の検討を掲載	熊野古道センター開館

の詳細については、資料4別紙を参照

県立博物館整備に関するこれまでの検討内容の概要

生活部作成

名称	「三重県における博物館構想」答申()	三重県センター博物館(仮称)基本計画	私たちのもとめる博物館についての報告	三重県の新しい博物館のあり方について 提言
会議	三重県文化審議会	三重県センター博物館(仮称)建設委員会	新しい博物館を考える懇話会	博物館整備検討プロジェクト会議
時期	昭和61年2月	平成6年3月	平成12年3月	平成16年1月
特徴	センター博物館(中央博物館)と5つのテーマ博物館(地域別専門博物館)によるネットワークの構築をめざす。 (斎宮歴史博物館はこの構想をもとに設置(平成元年10月))	昭和61年2月の答申を受け、基本構想(平成5年度)を経た上で策定。 県民の学習と学術文化の拠点、三重県の自然・歴史・文化のデータバンクとして、県民の交流と地域の国際化を展開する総合・センター博物館。	・自然系に重点を置いた博物館 ・県民が主体的に企画・運営に関わる県民参画型の博物館	コア博物館とサテライト(圏域博物館)が活動の両輪となる県民参画型の総合博物館。生涯学習施設・県総合文化センターとの連携を重視。(総合博物館)サテライトの施設は、学校の空き教室・公民館等の既存の施設の活用や、県内の他の博物館の協力などを想定。
目的	新たな文化を創造する場をめざす 三重県の自然及び歴史文化の保全と紹介	三重県の自然・歴史・文化を総合的にとらえ、日本・世界の中での位置づけを探るとともに、県民の交流と地域の国際化をうながす活動の場づくりを行う。	過去・現在を知ることにより、自然と人の未来を考える役割を担う。 企画段階からの県民参画や、五感による感受性、体験型を重視した活動を行う。 活動全般に県民が主体的に関わり、誰でもが楽しむことができる博物館とする。	人づくりに役立つ生涯学習施策を提供し、三重県を魅力ある社会にするための活動を行い、その拠点となる。
テーマ・コンセプト等	三重県の独自性を打ちだした博物館 具体的な課題を軸に、学際・国際的な交流ができる博物館づくり 親しみやすく魅力に富む博物館 学校教育・生涯学習と博物館の連携 最も進んだ情報技術を取り入れた博物館間の連携 真のニーズに立脚した博物館づくり	21世紀を想定した博物館 地域特性を活かした拠点となる博物館 ・総合博物館 ・センター博物館 ・県民に開かれた博物館	「自然と人の交差点」 自然系博物館と位置づけながらも、自然そのものだけを対象とするのではなく、自然と日常的な人のくらしとのかかわりの変遷や、これからの自然と人のあり方、つきあい方などについて、長期的な視点での探求を究極の目的とする。 ・未来を考える博物館 ・楽しい博物館	「みえ 人と自然の対話」 (サブテーマを5~6年ごとに設定) 「豊かなみえの自然と歴史を発見し、体験し、感動するミュージアム」 常にわくわくする心と新しい出会いがある博物館

「三重県における博物館構想」は、県全体における博物館整備についての答申であるが、この表の作成にあたっては、県立博物館にかかる記述を中心に整理した。